

有機金属研究会

1. はじめに

有機金属研究会は触媒学会における最初の研究委員会であるモレキュラーカタリシス委員会を母体として創立され、有機金属化合物の新しい用途と機能を開発・展望することを目的として、討論会における「有機金属・分子触媒 (Organometallic and Molecular Catalysis) セッション」ならびに「オルガノメタリックセミナー」を中心に活動している。本研究会が主題とする主なテーマは (1) 分子触媒の設計・合成と均一系触媒反応の開発、(2) 有機金属錯体による新しい反応の開拓、(3) 固体触媒反応の活性点の分子論的解明、(4) 有機金属化合物の機能材料および医薬への応用、(5) 金属クラスターの合成、構造および新しい化学反応性などである。本研究会ではこれらの活動を通して触媒における均一系触媒および有機金属化合物の反応ならびに分子触媒に関する研究活動の促進ならびに討論の場を提供し、触媒化学の発展に寄与することを目的としている。

2. 研究会の活動

2.1 第 134 回触媒討論会セッション参加 (名古屋大学)

日時：9月18日 (水)

依頼講演： 脇岡正幸 (相模中央研究所)

中村修一 (名古屋工業大学)

一般講演 13 件 (対面開催)、ポスター講演 1 件

2.2 第 51 回オルガノメタリックセミナー (京都工芸繊維大学)

第 51 回オルガノメタリックセミナー「グリーントランスフォーメーションの現状と挑戦」

日時：10月26日 (土)

講師：大木靖弘 (京都大学)、西村貴洋 (大阪公立大学)、中建介 (京都工芸繊維大学)

参加者：88 名 (対面開催)

3. 世話人代表

藤原哲晶 〒615-8510 京都府京都市西京区京都大学桂

京都大学 大学院工学研究院 物質エネルギー化学専攻

E-mail: fujihara.tetsuaki.2w@kyoto-u.ac.jp

4. 研究会の事業計画

4.1 第136回触媒討論会セッション参加（東北大学）

有機金属・分子触媒セッションを開催し、関連領域の討論の場を提供する。関連する有機金属化学討論会と同一日程となるためセッション開催日程を早期に確定して周知する。

4.2 第52回オルガノメタリックセミナーの開催

当研究会では「オルガノメタリックセミナー」を有機金属ならびに分子触媒の最新の研究成果の情報提供の場とするとともに、学生や社会人にも有機金属化学や触媒化学の無限の広がりとおもしろさを広く普及する場と位置付けている。なお、2025年度の第52回オルガノメタリックセミナーの開催地は調整中である。

4.3 世話人代表の交代

2024年3月より藤原哲晶（京都大学）が世話人代表を務めさせていただきます。微力ながら研究会の活性化に尽力致します。ご協力をよろしくお願い致します。当研究会にて10年間もの長きに渡り代表をお勤め頂いた平野雅文先生（東京農工大学）に感謝申し上げます。

5. 最近のトピックス

第134回触媒討論会は当研究会と関連する錯体化学討論会と日程が重複し、申込件数の減少が危惧されたが、多くの会員および世話人のご協力によりほぼ1日間のセッションを実施できた。依頼講演として、脇岡正幸先生（相模中央研究所）により「 π 共役ポリマーの精密合成を志向した高選択的重合触媒の開発」と題した講演をしていただき、錯体触媒を活用する炭素—水素結合の直接アリアル化を利用するポリマー合成について丁寧にお話頂いた。また、中村修一先生（名古屋工業大学）は「新規不斉触媒の創製と四置換不斉炭素構築法の開発」と題した有機触媒を活用するエナンチオ選択的な炭素—炭素結合形成反応について、基本的な部分から最新のご研究までをお話下さった。

第51回オルガノメタリックセミナーは、大村智通先生（京都工芸繊維大学）のお世話で、京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスにおいて行われた。大木靖弘先生（京都大学）からは酵素に学ぶ有機金属クラスター化合物の合成と窒素還元反応への利用を、西村貴洋先生（大阪公立大学）からはイリジウム触媒を用いた炭素—水素結合の活性化を経る様々な新反応開発を、中建介先生（京都工芸繊維大学）からは有機ヒ素化合物を基盤とした物質開発ならびに触媒機能探索について、素晴らしい話題提供を頂いた。多くの学生が参加し、学生から多くの質問が出る活発なセミナーとなった。また、セミナー後のミキサーでは学生や教員との交流が行われた。